

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2016.10.28

No.441



業況 BSI 前期比横ばい、2 期連続のマイナス (平成 28 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容

平成 28 年 7～9 月期の県内企業の業況実績
平成 28 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し

調査時期

平成 28 年 10 月上旬

調査対象企業

県内中堅企業 328 社

回答企業

228 社 (回収率:69.5%)

製造業 52 社 建設業 40 社 卸売業 52 社
小売業 34 社 運輸業・サービス業 50 社
青森地区 85 社 津軽地区 62 社 県南地区 81 社

BSI とは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

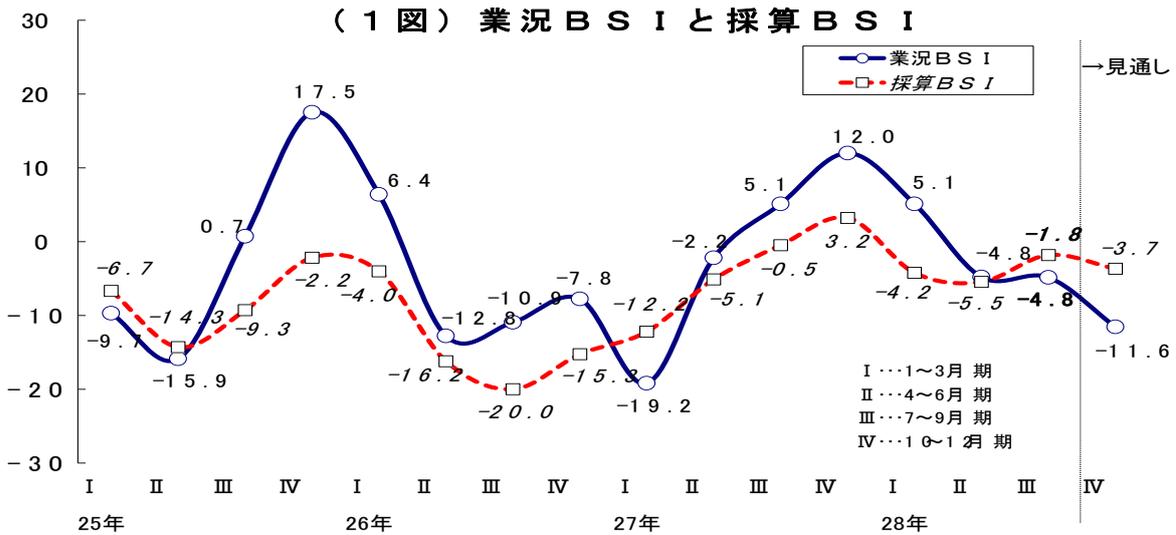
BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成28年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期(28年4～6月期)比横ばいの△4.8となった。建設業、運輸・サービス業、小売業で上昇したものの、卸売業、製造業で低下した。

全産業「採算BSI」は同3.7ポイント上昇の△1.8となった。卸売業で低下したものの、運輸・サービス業、建設業、小売業で上昇し3期ぶりに上昇した。(以上、1～12図、付表参照)



(付表)平成28年7～9月期の主要BSI一覧 (※前期28年4～6月期)

	当期	前期比		当期	前期比
業況BSI	-4.8	0.0	仕入単価BSI	13.5	▲2.8
採算BSI	-1.8	3.7	販売単価BSI	1.8	1.3
生産高BSI	3.8	▲8.4	在庫投資BSI 製造	0.0	10.0
操業度BSI	-7.8	▲13.8	〃 非製造	0.0	▲9.0
受注高BSI	15.8	23.3	設備投資BSI 製造	3.8	9.8
売上高BSI	-15.6	▲1.8	〃 非製造	8.2	10.7
出荷高BSI	0.0	▲10.0	資金繰りBSI	16.5	3.1

(付表)来期見通し (平成28年10～12月期)

	来期見込み	当期比		来期見込み	当期比
業況BSI	-11.6	▲6.8	採算BSI	-3.7	▲1.9

2. 28年7～9月期の業況

(1) 業況 —前期比横ばい、2期連続のマイナス—

28年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比横ばいの△4.8と2期連続のマイナスとなった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合が同0.6ポイント減少の24.7%、業況悪化とした企業の割合は同0.6ポイント減少の29.5%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比2.0ポイント低下の0.0となった。食料品、金属製品、造船などで好転がみられたものの、生コン、繊維・衣服、一般機械などで業況が悪化した。

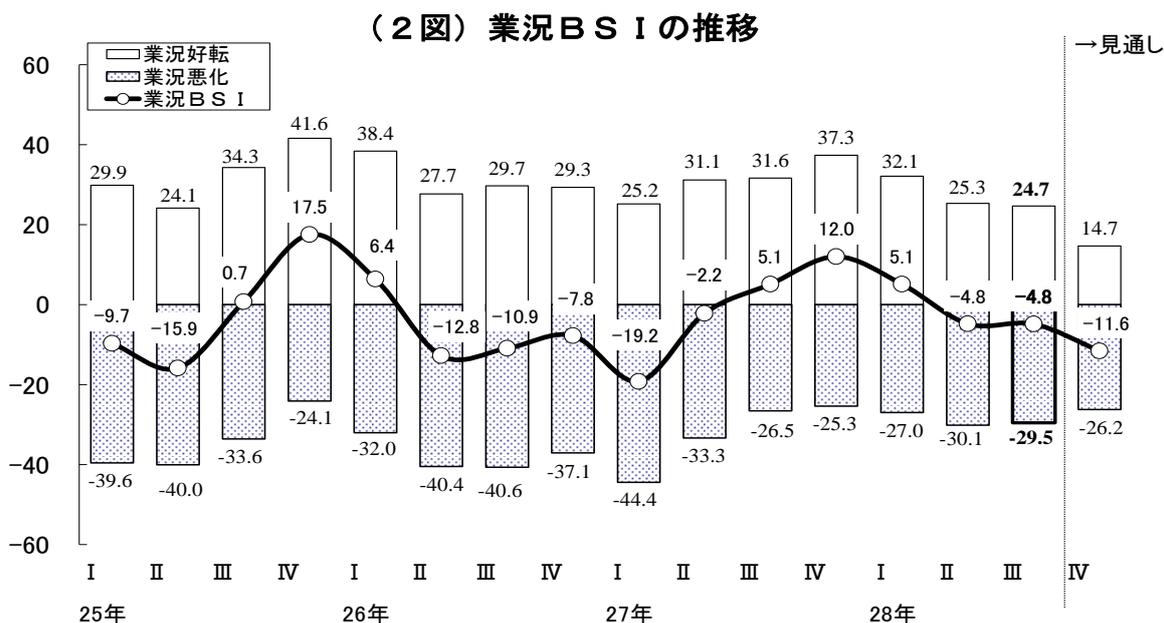
非製造業は、卸売業を除くすべての産業で好転した。建設業が前期比10.0ポイント上昇の5.0、運輸・サービス業が同9.6ポイ

ント上昇の6.0、小売業が同3.4ポイント上昇の△11.8となった。一方、卸売業は同17.4ポイント低下の△23.5となった。

建設業は、総合工事、設備工事で好転が広がった。運輸・サービス業は、鉄道、不動産賃貸、宿泊、レンタカーなどで好転が広がった。小売業は、自動車で幾分好転が広がった。一方、卸売業は、食料品、青果物、水産物、機械器具などで悪化が広がった。

当期は、建設業、運輸・サービス業、小売業で上昇したものの、卸売業、製造業が低下し、全体として前期比横ばいとなった。

(以上、2図、付表 参照)



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
27年 7 - 9 月期	12.2	7.3	-8.3	-14.3	20.4	5.1
27年 10 - 12 月期	-2.0	20.0	-1.9	15.6	32.0	12.0
28年 1 - 3 月期	0.0	2.8	16.0	-10.0	10.4	5.1
28年 4 - 6 月期	2.0	-5.0	-6.1	-15.2	-3.6	-4.8
28年 7 - 9 月期	0.0	5.0	-23.5	-11.8	6.0	-4.8
来期見通し	-3.8	-10.0	-11.8	-14.7	-18.8	-11.6

(2) 採算の状況 —「採算BSI」3期ぶりの上昇もマイナスは継続—

28年7～9月期の全産業「採算BSI」は前期比3.7ポイント上昇の△1.8となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同2.2ポイント増加の12.2%、一方、採算悪化とした企業の割合は同1.5ポイント減少の14.0%となった。

産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比横ばいの△2.0となった。電子部品・デバイス、食料品で好転がみられた一方、生コン、一般機械で悪化がみられた。

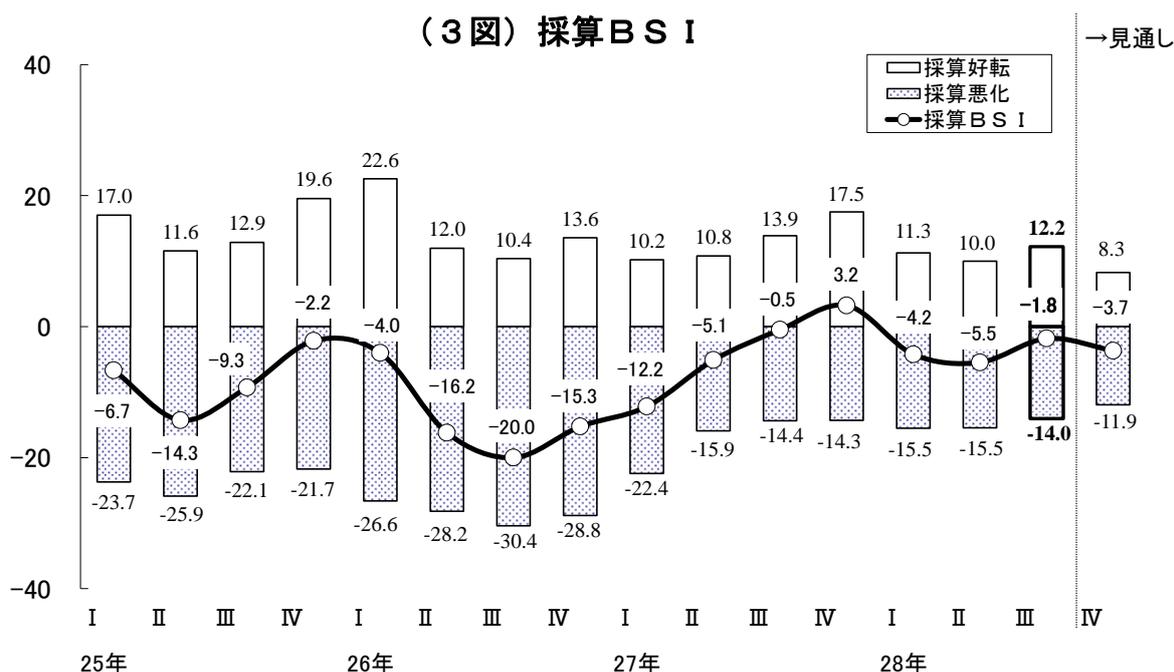
非製造業は、運輸・サービス業が前期比11.8ポイント上昇の4.3、建設業が同10.5ポイント上昇の0.0、小売業が同6.5ポイント

上昇の△2.9となった。一方、卸売業は同7.8ポイント低下の△7.8となった。

運輸・サービス業は、貨物運送、宿泊で好転が広がった。建設業は総合工事で悪化がみられたものの、設備工事で好転が広がった。小売業は、自動車で好転が広がったほか、酒販、燃料で好転がみられた。

一方、卸売業は、水産物、建築材料、機械器具で悪化がみられた。

当期の「採算BSI」は3期ぶりの上昇もマイナスは継続した。運輸・サービス業、建設業、小売業で好転したものの、卸売業で悪化した。(以上、3図、付表参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
27年7-9月期	4.1	-17.1	-2.2	3.6	8.9	-0.5
27年10-12月期	8.0	-10.5	3.8	16.7	0.0	3.2
28年1-3月期	-9.6	-2.9	0.0	-20.0	6.3	-4.2
28年4-6月期	-2.0	-10.5	0.0	-9.4	-7.5	-5.5
28年7-9月期	-2.0	0.0	-7.8	-2.9	4.3	-1.8
来期見通し	3.9	-10.3	-2.0	-3.1	-8.9	-3.7

(3) 生産高・操業度の状況 —「生産高 BSI」3 期ぶりに低下—

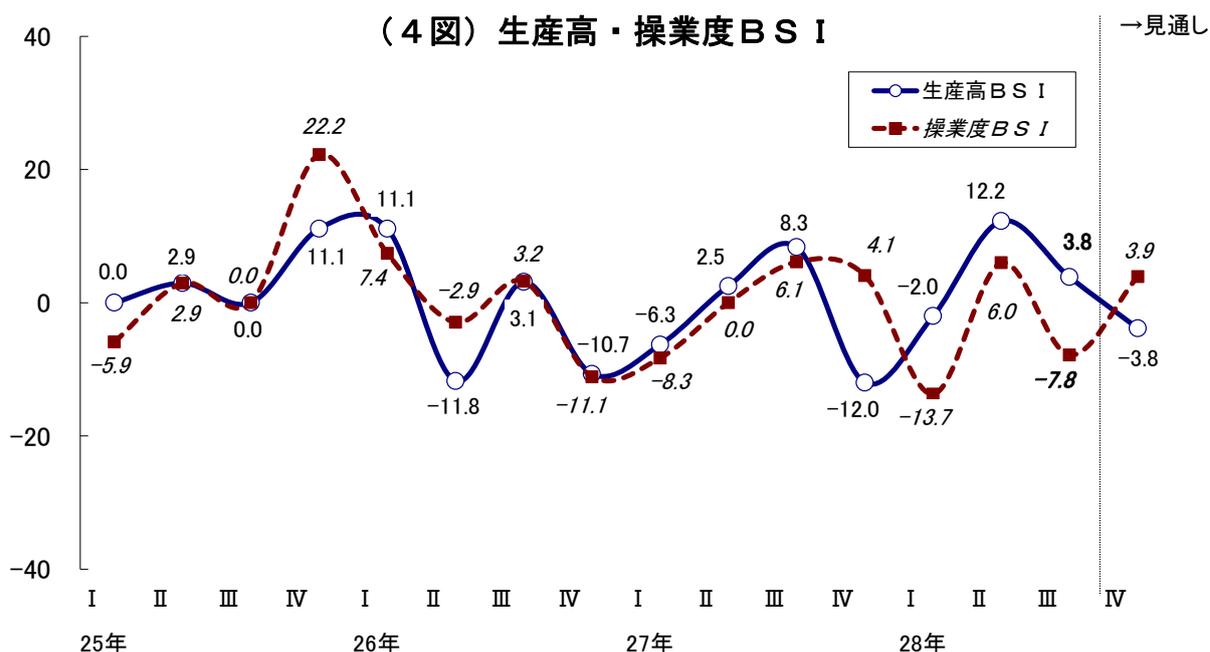
28 年 7～9 月期の製造業の「生産高 BSI」は前期比 8.4 ポイント低下の 3.8 となり、3 期ぶりに低下した。また、「操業度 BSI」は同 13.8 ポイント低下の△7.8 と再びマイナスとなった。

食料品、電子部品・デバイスなどで増産と

なったものの水産加工、一般機械、パルプ・紙、生コンなどで減産となった。

来期は「生産高 BSI」が当期比 7.6 ポイント低下の△3.8、「操業度 BSI」が同 11.7 ポイント上昇の 3.9 となる見通しである。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況 —「受注高 BSI」3 期ぶりに上昇、プラスに転じる—

28 年 7～9 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 23.3 ポイント上昇の 15.8 となり 3 期ぶりに上昇しプラスに転じた。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 6.7 ポイント増加の 34.2%、一方、受注減少とした企業の割合は同 16.6 ポイント減少の 18.4%となった。当期の受注高 BSI は受注増加の割合が減少を上回った。

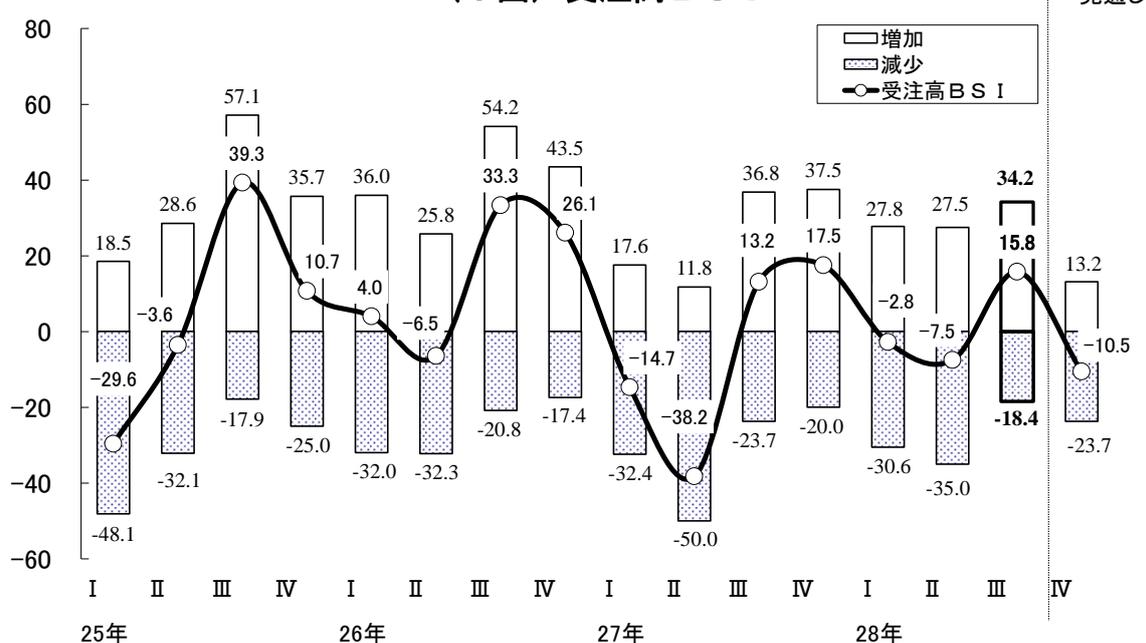
当期は、総合工事で受注増加の割合が

大幅に増加したほか、職別工事、設備工事でも増加した。

来期は、受注増加とする割合が当期比 21.0 ポイント減少の 13.2%、受注減少とする割合は同 5.3 ポイント増加の 23.7%と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同 26.3 ポイント低下の△10.5 と大幅に低下する見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5図) 受注高BSI



(5) 売上高・出荷高の状況 —「売上高BSI」3期連続低下—

28年7～9月期の「売上高BSI」は、前期比1.8ポイント低下の△15.6となり、3期連続で低下、2期連続のマイナスとなった。

産業別の「売上高BSI」をみると、卸売業が前期比11.4ポイント低下の△21.6、運輸・サービス業が同8.9ポイント低下の△16.0となった。一方、小売業は同24.4ポイント上昇の△5.9となった。

卸売業は、飲食料品、水産物、ガス、紙などで売上が減少した。運輸・サービス業は、鉄道、道路旅客運送、道路貨物運送、情報サービス、広告などで減少した。一方、小売業は、衣料品、スーパー、自動車、燃料などで増加した。

なお、来期の「売上高BSI」は卸売業で衣料品、飲食料品、機械器具、福祉用品などで増加が見込まれる。小売業では衣料品で増加が見込まれる一方、燃料で減少が見込まれる。運輸・サービス業では、道路旅客運送、道路貨物運送などで幾分減少が見込まれるものの、情報サービス、不動産賃貸、

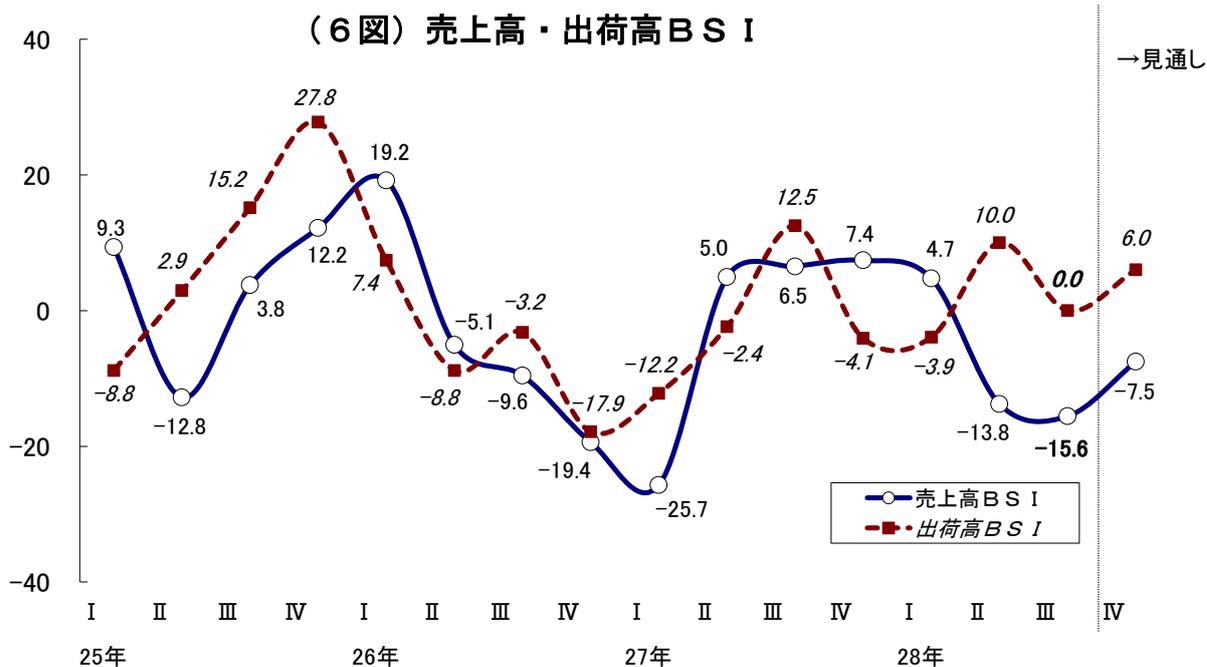
宿泊などで減少割合の縮小が見込まれ、全体では当期比8.1ポイント上昇の△7.5と、改善の見通しである。

製造業の28年7～9月期の「出荷高BSI」は前期比10.0ポイント低下の0.0と3期ぶりに低下した。

木材・木製品で出荷増加がみられたものの、食料品、飲料、パルプ・紙、生コン、電子部品・デバイスなどで出荷減少が目立った。

来期の「出荷高BSI」は、パルプ・紙、印刷などで出荷減少が見込まれるものの、食料品、飲料、一般機械などで出荷増加割合の増加が見込まれ、当期比6.0ポイント上昇の6.0と再びプラスとなる見通しである。

(以上、6図、付表参照)



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
27年 7 - 9 月期	12.5	10.6	-18.5	16.3	6.5
27年 10 - 12 月期	-4.1	-7.7	3.1	25.5	7.4
28年 1 - 3 月期	-3.9	10.0	-17.2	12.5	4.7
28年 4 - 6 月期	10.0	-10.2	-30.3	-7.1	-13.8
28年 7 - 9 月期	0.0	-21.6	-5.9	-16.0	-15.6
来期見通し	6.0	-3.9	-5.9	-12.5	-7.5

(6) 価格の状況

—販売仕入両単価の乖離、5期連続で縮小—

28年7～9月期の「仕入単価BSI」は前期比2.8ポイント低下の13.5となり、5期連続で低下した。産業別にみると、製造業が同1.8ポイント上昇の9.6、非製造業は同4.7ポイント低下の15.3となった。

製造業は、パルプ・紙、印刷、鉄鋼で低下がみられたものの、食料品、生コン、金属製品、一般機械、造船などで上昇がみられた。

非製造業は、小売業が前期比9.7ポイント低下の16.1、卸売業が同8.4ポイント低下の10.0となった。一方、建設業は同4.5ポイント上昇の21.6となった。

卸売業は、青果物、ガス、紙、ゴムで低下

がみられた。小売業は燃料で低下したほか、自動車では上昇の動きが弱まった。

建設業は、総合工事、設備工事では仕入単価上昇の動きがやや強まった。

28年7～9月期の「販売単価BSI」は前期比1.3ポイント上昇の1.8と再び上昇した。産業別にみると、製造業が同7.9ポイント上昇の5.9となった。一方、非製造業は同0.6ポイント低下の0.6となった。

製造業は、農産加工、水産加工、飲料、生コン、金属製品などで販売単価の上昇がみられた。

非製造業は、小売業が前期比17.7ポイント上昇の14.7、建設業が同3.0ポイント上

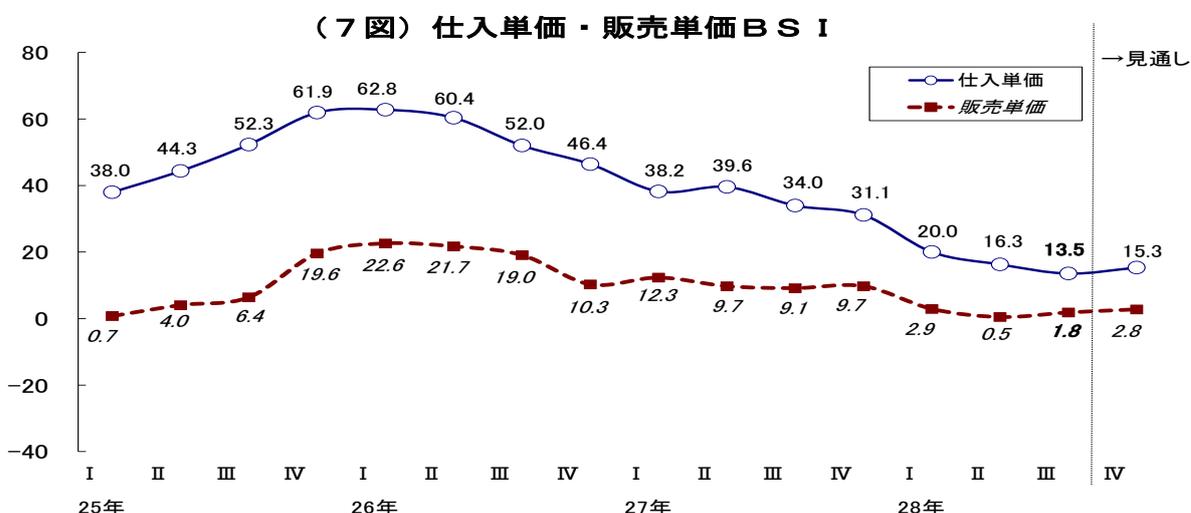
昇の0.0、運輸・サービス業が同1.9ポイント上昇の0.0となった。一方、卸売業は同18.0ポイント低下の△7.8、となった。

小売業は、事務機器で低下したものの、自動車、家電、書籍、衣料品などで上昇した。建設業は、総合建設で幾分上昇がみられた。運輸・サービス業はガス、娯楽で低下がみられたものの、宿泊、レジャー施設、葬祭で上昇がみられた。一方、卸売業は、建設資材、青果物、ガス、紙、ゴムなどで低下

がみられた。

当期は仕入単価が低下した一方、販売単価が上昇し、両単価の乖離は、さらに縮小した。なお、来期については、「仕入単価BSI」が当期比1.8ポイント上昇の15.3、「販売単価BSI」が同1.0ポイント上昇の2.8となり、両単価の乖離は、やや拡大する見通しである。

(以上、7図、付表 参照)



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業	製造業			非製造業	仕入単価BSI
		建設業	卸売業	小売業		
27年 7 - 9 月期	25.0	38.5	43.5	26.9	37.8	34.0
27年 10 - 12 月期	24.5	30.6	46.2	16.7	33.9	31.1
28年 1 - 3 月期	9.6	28.6	30.0	10.7	24.8	20.0
28年 4 - 6 月期	7.8	17.1	18.4	25.8	20.0	16.3
28年 7 - 9 月期	9.6	21.6	10.0	16.1	15.3	13.5
来期見通し	13.5	27.0	12.0	9.7	16.1	15.3

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業	製造業				非製造業	販売単価BSI
		建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス		
27年 7 - 9 月期	12.2	0.0	27.1	0.0	0.0	8.2	9.1
27年 10 - 12 月期	6.1	-5.6	25.0	6.3	10.6	10.8	9.7
28年 1 - 3 月期	0.0	0.0	20.0	-10.0	-2.2	3.8	2.9
28年 4 - 6 月期	-2.0	-3.0	10.2	-3.0	-1.9	1.2	0.5
28年 7 - 9 月期	5.9	0.0	-7.8	14.7	0.0	0.6	1.8
来期見通し	2.0	-2.8	9.8	11.8	-6.5	3.0	2.8

(7) 在庫投資・在庫水準の状況 — 製造業で積み増しの動き —

28年7～9月期の「在庫投資 BSI」は、製造業が前期比 10.0 ポイント上昇の 0.0、非製造業は同 9.0 ポイント低下の 0.0 となった。

製造業は衣服、木材・木製品、鉄鋼、金属製品、一般機械などで手控えの動きがみられたものの、水産加工、印刷、化学、生コンで積み増しの動きがみられ、全体では上昇した。

非製造業をみると、卸売業では建設資材で、小売業では自動車用品、事務機器で手控えの動きがみられた。

来期の在庫投資 BSI は、製造業が当期

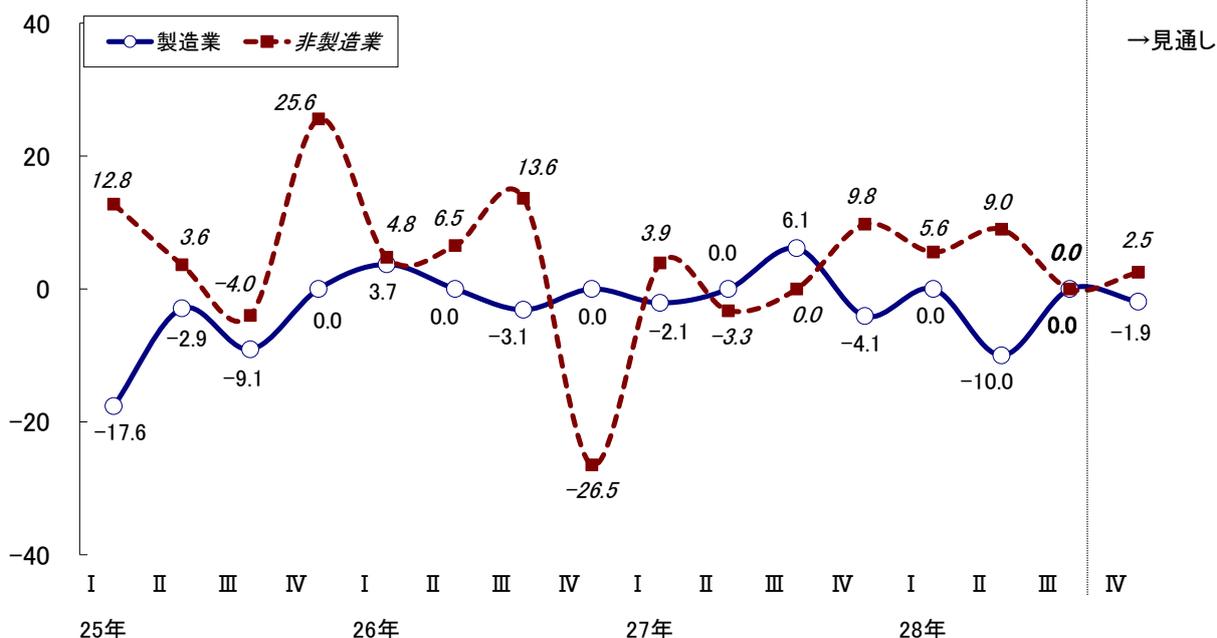
比 1.9 ポイント低下の△1.9、非製造業は同 2.5 ポイント上昇の 2.5 と見込まれる。

次に在庫水準についてみると、「製品・商品在庫水準 BSI」は、製造業の「製品在庫水準 BSI」が前期比 5.9 ポイント上昇の 11.8 となった。一方、卸・小売業の「商品在庫水準 BSI」は同 2.5 ポイント上昇の 6.4 となった。

来期は、製品では水産加工品、肉加工品で、商品では水産物や水産加工品などで不足感が見込まれている。

(以上、8 図、付表 参照)

(8 図) 在庫投資 B S I (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連 B S I の推移

	在庫投資 BSI		製品・商品在庫水準 BSI	
	製造業	非製造業	製造業	卸・小売業
27年 7 - 9 月期	6.1	0.0	4.1	5.5
27年 10 - 12 月期	-4.1	9.8	-2.0	10.8
28年 1 - 3 月期	0.0	5.6	5.8	5.5
28年 4 - 6 月期	-10.0	9.0	5.9	3.9
28年 7 - 9 月期	0.0	0.0	11.8	6.4
来期見通し	-1.9	2.5	2.0	-1.3

(8) 設備投資の動向

—製造業、非製造業ともに上昇—

28年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比9.8ポイント上昇の3.8、非製造業は同10.7ポイント上昇の8.2となった。

製造業は、パルプ・紙で老朽化更新、生コンで車輛購入、食料品で設備更新や包装・搬送、造船で研掃工場建設などの動きがみられ全体では前期比で上昇した。

非製造業をみると、建設業では車輛、重機などの投資がみられた。卸売業では、飲食料品で冷凍庫、冷蔵庫、建設資材で場内舗装改良、店舗新築、機械設備更新、土地・建物取得の投資がみられた。小売業ではスーパーで新店舗建設等、事務機器で車輛購入や事務機器、GSで給油所建て替え、自動車で照明のLED化などの投資が

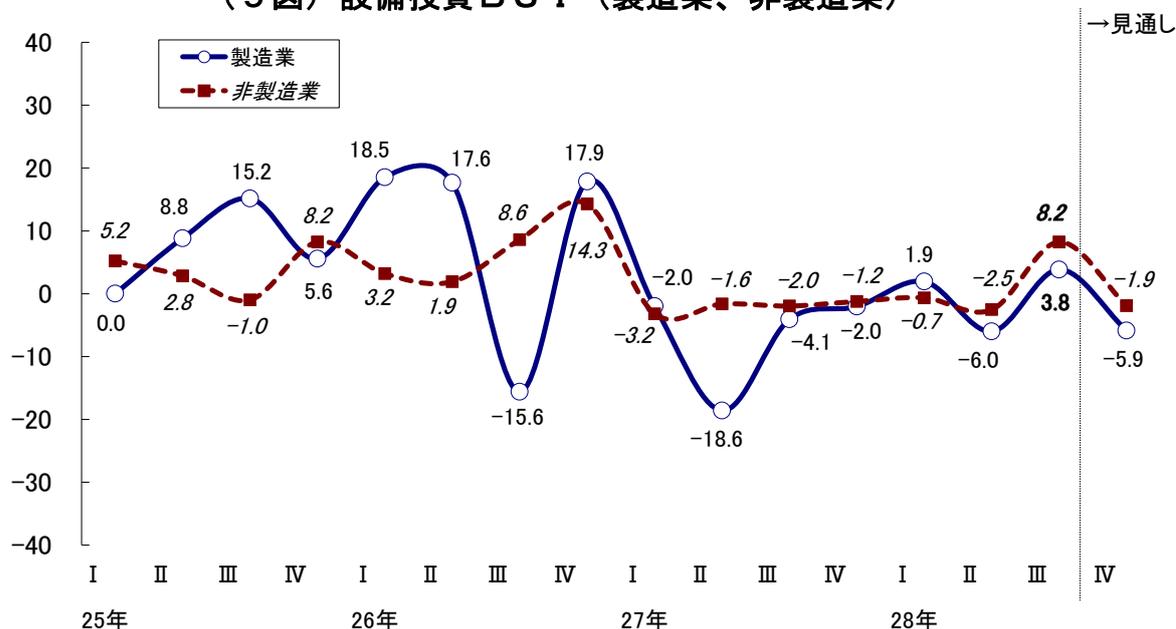
みられた。運輸・サービス業では旅客運送で車輛、貨物運送で車輛、リフトなどの投資がみられた。ガス事業ではガス管入れ替えなどの投資がみられた。

来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比9.7ポイント低下の△5.9、非製造業が同10.1ポイント低下の△1.9と、ともに低下が見込まれている。

なお今後6ヶ月間では、食品製造で貯水タンク他、事務機器販売で車輛や事務機、ガス業で機械設備更新、建設資材卸売で機械設備の更新、スーパーで店舗建設等などが予定されている。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)

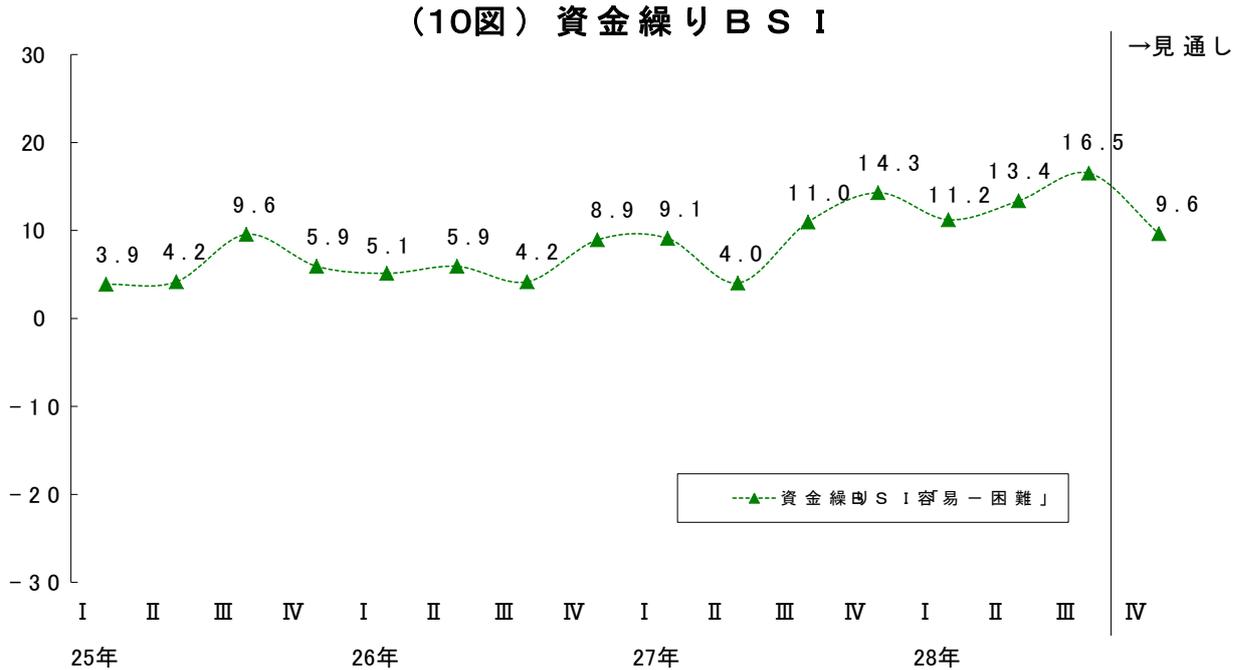


(9) 企業金融の動向 —資金繰りやや容易に—

28年7～9月期の企業金融の動向をみると、「資金繰りBSI」は前期比3.1ポイント上昇の16.5となり、手元資金の資金繰りがやや容易になった。

来期は当期比6.9ポイント低下の9.6となる見通しである。資金繰りのタイト化がうかがわれるが、全体にはほぼ適正範囲内での動きが見込まれている。

(以上、10図、付表 参照)



(付表) 資金繰りBSIの推移

	資金繰りBSI (容易 - 困難)
27年 7 - 9 月期	11.0
27年 10 - 12 月期	14.3
28年 1 - 3 月期	11.2
28年 4 - 6 月期	13.4
28年 7 - 9 月期	16.5
来期見通し	9.6

(10) 地区別の状況 —「業況BSI」青森と県南低下、津軽上昇—

28年7～9月期の「業況BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比7.2ポイント低下の△10.6、県南地区が同1.5ポイント低下の△6.3となった。一方、津軽地区は同11.8ポイント上昇の4.8となった。

そのほかの主要BSIをみると、まず、「生産高BSI」は、青森地区が前期比21.4ポイント低下の0.0、県南地区が同11.2ポイント低下の△3.8となった。一方、津軽地区は同12.5ポイント上昇の25.0となった。

「出荷高 BSI」は、津軽地区が前期比 8.3 ポイント上昇の 8.3、青森地区が同 1.1 ポイント上昇の 15.4 となった。一方、県南地区は同 23.1 ポイント低下の△12.0 となった。

「売上高 BSI」は、県南地区が前期比 3.1 ポイント低下の△17.1、津軽地区が同 2.2 ポイント低下の△10.8、青森地区が同 0.8 ポイント低下の△17.5 と 3 地区ともに低下した。

建設業の「受注高 BSI」は、県南地区が前期比 32.7 ポイント上昇の 25.0、青森地区が同 30.2 ポイント上昇の 23.1 となった。一方、津軽地区は同 7.7 ポイント低下の 0.0 となった。

「在庫投資 BSI」は、県南地区が前期比 4.1 ポイント低下の△16.3、青森地区が同 1.9 ポイント低下の 7.5 となった。一方、津軽地区は同 1.8 ポイント上昇の 13.3 となった。

「設備投資 BSI」は、津軽地区が前期比 14.5 ポイント上昇の 8.6、青森地区が同 12.0 ポイント上昇の 8.1、県南地区が同 6.4

ポイント上昇の 5.1 となった。

「採算 BSI」は、青森地区が前期比 7.1 ポイント上昇の 0.0、津軽地区が同 2.1 ポイント上昇の△3.3、県南地区が同 1.3 ポイント上昇の△2.5 と 3 地区ともに上昇した。

「資金繰り BSI」は、津軽地区が前期比 13.1 ポイント上昇の 13.1、青森地区が同 0.9 ポイント上昇の 16.9 となった。一方、県南地区は同 1.0 ポイント低下の 18.8 となった。

来期の「業況 BSI」をみると、津軽地区が当期比 13.0 ポイント低下の△8.2、青森地区が同 6.1 ポイント低下の△16.7、県南地区が同 2.5 ポイント低下の△8.8 と 3 地区とも低下が見込まれる。他の主要 BSI については、「受注高 BSI」、「採算 BSI」で全体的な低下が見込まれるほかは、地区ごとに上昇、低下が混在する、ばらつきが見込まれている。
(以上、1表 参照)

(1表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
27年 7 - 9 月期	6.1	15.1	-2.5	12.5	25.0	0.0	18.8	11.1	8.7
27年 10 - 12 月期	15.0	12.9	8.4	0.0	-10.0	-18.5	7.7	-20.0	-3.8
28年 1 - 3 月期	1.3	14.8	1.3	-38.5	20.0	7.4	-23.1	18.2	-3.7
28年 4 - 6 月期	-3.4	-7.0	-4.8	21.4	12.5	7.4	14.3	0.0	11.1
28年 7 - 9 月期	-10.6	4.8	-6.3	0.0	25.0	-3.8	15.4	8.3	-12.0
来期見通し	-16.7	-8.2	-8.8	7.1	8.3	-15.4	15.4	16.7	-4.0
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
27年 7 - 9 月期	3.8	26.7	-4.9	23.1	25.0	-7.7	5.9	4.2	-2.1
27年 10 - 12 月期	5.8	15.0	2.3	14.3	38.5	0.0	7.8	10.7	-1.9
28年 1 - 3 月期	4.0	25.6	-15.8	-14.3	18.2	-9.1	4.2	10.3	-2.2
28年 4 - 6 月期	-16.7	-8.6	-14.0	-7.1	-7.7	-7.7	9.4	11.5	-12.2
28年 7 - 9 月期	-17.5	-10.8	-17.1	23.1	0.0	25.0	7.5	13.3	-16.3
来期見通し	-10.5	-13.9	2.5	-7.7	-15.4	-8.3	5.7	10.0	-10.2
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
27年 7 - 9 月期	-2.6	-4.2	-1.3	-7.4	9.4	0.0	13.6	-1.9	17.1
27年 10 - 12 月期	8.1	-5.3	-7.5	0.0	6.7	3.7	15.6	3.4	21.0
28年 1 - 3 月期	-6.8	0.0	6.8	-9.3	0.0	-2.6	14.5	-1.6	18.2
28年 4 - 6 月期	-3.9	-5.9	-1.3	-7.1	-5.4	-3.8	16.0	0.0	19.8
28年 7 - 9 月期	8.1	8.6	5.1	0.0	-3.3	-2.5	16.9	13.1	18.8
来期見通し	2.7	-7.0	-5.2	-3.7	-5.1	-2.6	7.5	10.0	11.5

3. 経営上の問題点

—「人員不足」2期連続で大幅な増加—

28年7～9月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が44.8%でトップとなった。次いで「売上・受注不振」が41.7%、「人員不足」が39.5%、「人材育成・技術継承」が35.0%、「営業力不足」が23.3%、「設備の老朽化」が21.5%、「収益低下」が17.5%などと続いた。当期は「仕入単価上昇」、「設備の老朽化」、「収益低下」などの割合が前期に比べ減少した一方、「人員不足」、「営業力不足」、「原材料不足」、「設備不足」など4項目では割合が増加した。

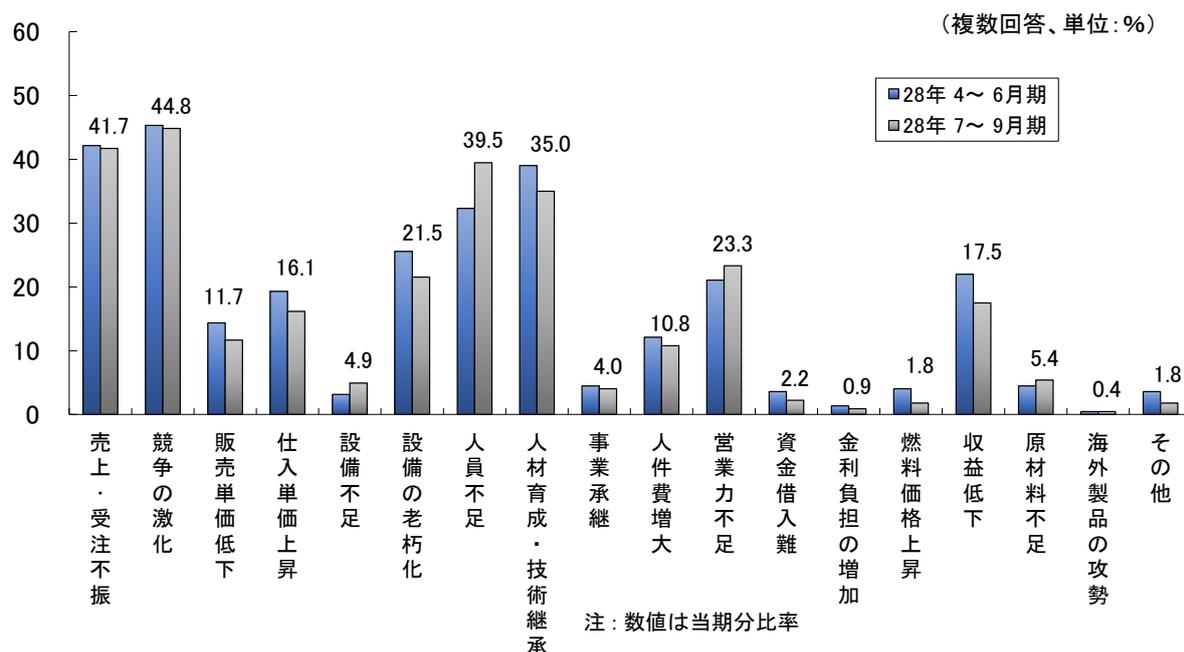
特に、「人員不足」に関しては、前期比

7.2ポイント増加の39.5となり、2期連続で大幅な増加となった。

トップに上げられた経営上の問題点を産業別にみると、建設業、卸売業、小売業では「競争の激化」、製造業では「売上不振」、運輸業、サービス業では「人員不足」が上げられた。なお製造業では「設備老朽化」が、サービス業では「売上不振」の割合も高かった。なお、運輸業の「人員不足」は前期調査よりさらに割合が増加して6割強を占め、不足感がさらに強まっている。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売単価低下	仕入単価上昇	人員不足	人材育成・技術継承	人件費増大	収益低下
27年 7 - 9 月期	22.9	34.8	12.3	20.8	25.3	27.0	9.6	18.1
27年 10 - 12 月期	27.9	35.5	12.5	22.6	24.7	24.7	9.4	19.9
28年 1 - 3 月期	32.5	38.2	11.4	16.1	21.4	26.8	7.9	19.3
28年 4 - 6 月期	42.2	45.3	14.3	19.3	32.3	39.0	12.1	22.0
28年 7 - 9 月期	41.7	44.8	11.7	16.1	39.5	35.0	10.8	17.5

4. 来期の見通し

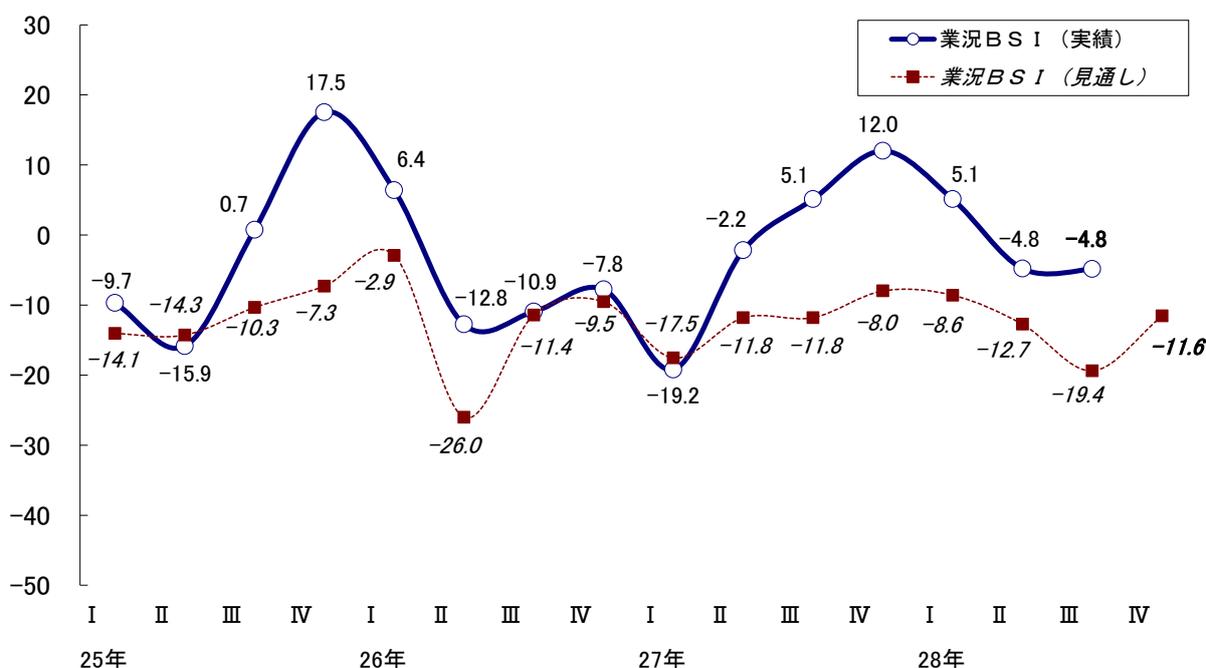
来期(28年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比6.8ポイント低下の△11.6となる見通しである。産業別では、運輸・サービス業が同24.8ポイント低下の△18.8、建設業が同15.0ポイント低下の△10.0、製造業が同3.8ポイント低下の△3.8、小売業が同2.9ポイント低下の△14.7と低下が見込まれる。一方、卸売業は同11.7ポイント上昇の△11.8と上昇が見込まれる。

次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比1.9ポイント低下の△3.7となる見

通しである。産業別にみると、運輸・サービス業が同13.2ポイント低下の△8.9、建設業が同10.3ポイント低下の△10.3、小売業が同0.2ポイント低下の△3.1となる見通しである。一方、製造業は同5.9ポイント上昇の3.9、卸売業は同5.8ポイント上昇の△2.0となる見通しである。

このほかの主要BSIでは、「操業度BSI」「売上高BSI」「出荷高BSI」で上昇、「生産高BSI」「受注高BSI」で低下が見込まれている。(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	28年7-9月期	0.0	5.0	-23.5	-11.8	6.0	-4.8
	来期見通し	-3.8	-10.0	-11.8	-14.7	-18.8	-11.6
採算BSI	28年7-9月期	-2.0	0.0	-7.8	-2.9	4.3	-1.8
	来期見通し	3.9	-10.3	-2.0	-3.1	-8.9	-3.7